

令和7年度全国学力・学習状況調査

<長崎県の結果の概要>

調査の概要

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 実施対象

県内公立学校の以下の学年の、全児童生徒を原則として対象とする。

- 小学校調査...小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、
特別支援学校小学部第6学年
- 中学校調査...中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、
特別支援学校中学部第3学年

3 調査内容

(1) 児童生徒に対する調査

教科に関する調査...小学校調査：国語、算数、理科
中学校調査：国語、数学、理科

質問調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

(2) 学校に対する調査

学校における指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 調査期日

- 令和7年4月17日(木)
(中学校理科は令和7年4月14日(月)から4月17日(木)までの間)

5 調査実施校数及び児童生徒数

- (1) 実施校数 464校 (小学校：297校、中学校：167校)
義務教育学校2校を含む

(2) 参加児童生徒数

- 小学校6年生 10,472人
- 中学校3年生 9,912人

全国学力・学習状況調査「結果の概要」

1 教科に関する調査

1 平均正答率及び平均正答数

(上段：平均正答率 下段：平均正答数)

県全体 (公立小・中・義務教育学校、県立中・特別支援学校)					
小学校			中学校		
教科	本県	全国	教科	本県	全国
国語	66	66.8	国語	54	54.3
	9.3/14	9.4/14		7.6/14	7.6/14
算数	56	58.0	数学	46	48.3
	8.9/16	9.3/16		6.9/15	7.2/15
理科	57	57.1	理科	498	503
	9.7/17	9.7/17			

中学校理科は IRT スコア

< 参考 >

文科省「令和7年度全国学力・学習状況調査「中学校理科」IRT を用いた結果返却について」
抜粋資料

全国学力・学習状況調査におけるIRTスコア・IRTバンドについて

IRTスコア

IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、**500を基準にした得点**で表すものです。

(各教科にCBT・IRTを導入する年(中学校理科：R7、中学校英語：R8、国語、算数・数学：R9)の
全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。)

IRTバンド

IRTスコアを**1～5の5段階**に区切ったものです。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。

(各教科にCBT・IRTを導入する年(中学校理科：R7、中学校英語：R8、国語、算数・数学：R9)の
全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。)

※IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題に正答していると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。

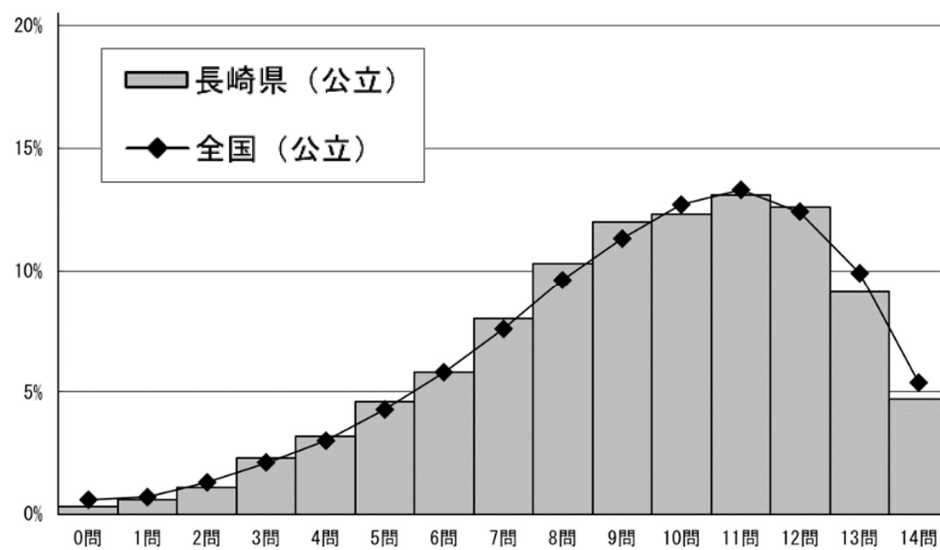
※IRTバンドをIRTスコアに換算すると、およそ以下の対応関係になる見通しです。

IRTバンド	1	2	3	4	5
IRTスコア範囲	～350	350～450	450～550	550～650	650～

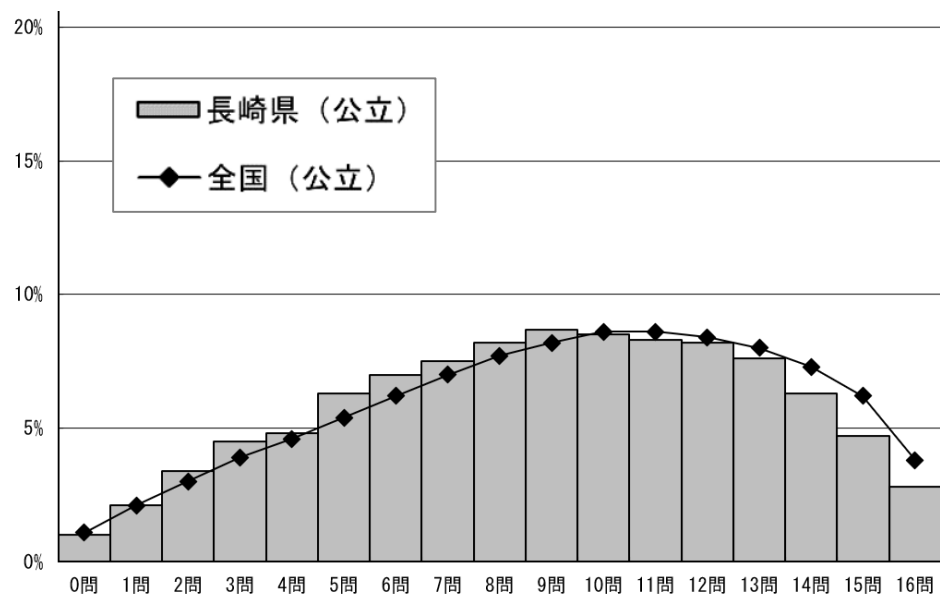
※非公開問題は、国や自治体等の状況を把握することを主目的とする出題です。このため、個々の問題の内容や正誤はフィードバックされませんが、IRTスコア・IRTバンドの算出に使用されます。

2 各教科の正答数分布グラフ

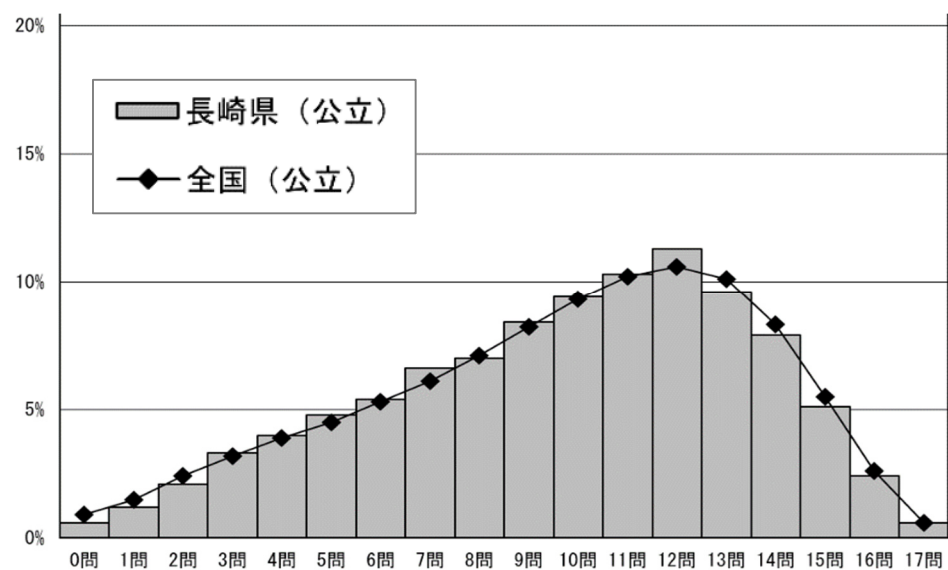
○ 小学校国語



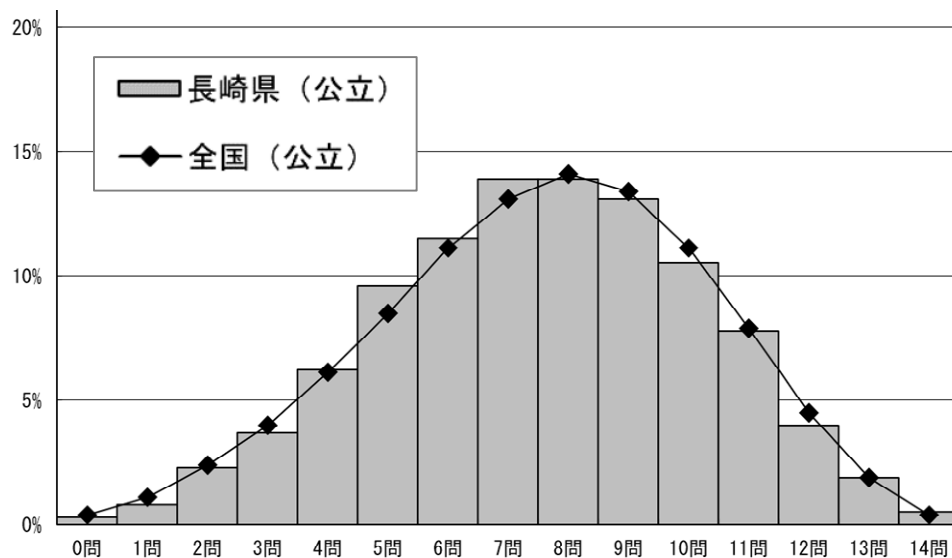
○ 小学校算数



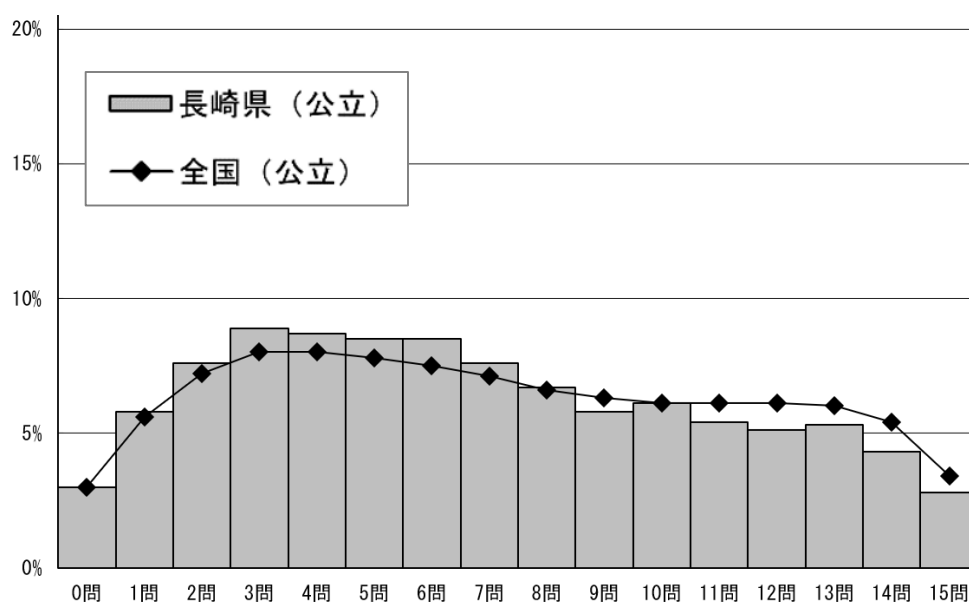
○ 小学校理科



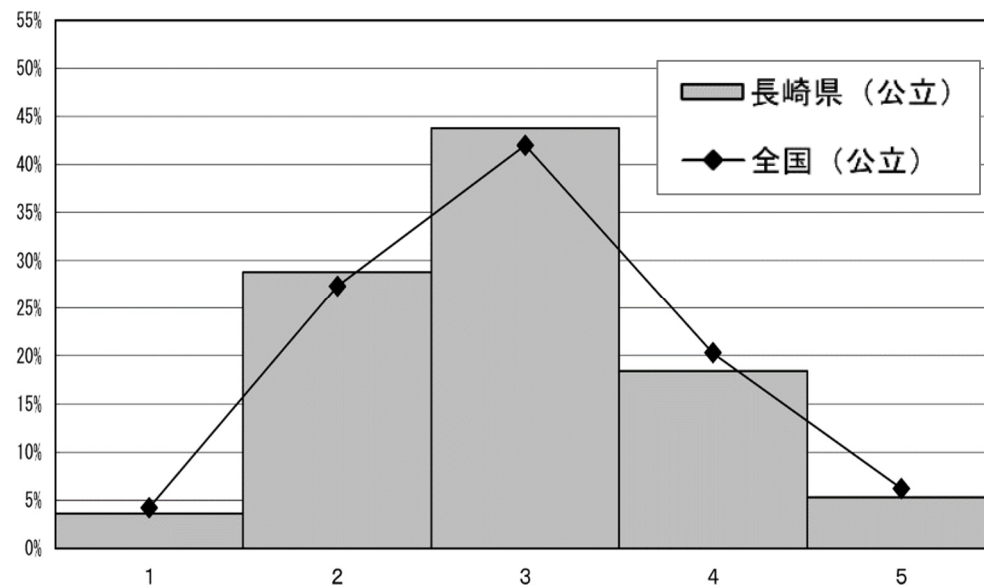
○ 中学校国語



○ 中学校数学



○ 中学校理科



中学校理科は IRT バンド (横軸: IRT バンド 縦軸: 割合)

3 結果の総括

(1) 県全体の平均正答率について

国語は、小学校・中学校ともに全国と同程度であった。

算数・数学は全国平均を下回った。(算数 2.0 ポイント、数学 2.3 ポイント)

理科は、小学校は全国と同程度であり、中学校は全国平均 (IRT スコア) を 5 ポイント下回った。

(2) 各教科の正答数分布について

各教科とも、全国の分布と大きな違いは見られない。

算数・数学では、上位層の割合が全国と比べて小さい。

(3) 各教科の結果から見られる本県児童生徒の課題

(太字は令和 6 年度に設定した重点課題であり、引き続き課題となっている)

		課 題	問題番号	平均正答率		
				全国	本県	自校
小 学 校	国 語	目的に応じて、必要な情報を見付ける	3三 (1)	40.8	38.0	
		条件に合わせて書く	2三	61.3	62.0	
	算 数	図形の性質を理解し、面積の求め方を考える	2(4)	37.0	31.8	
		割合の意味や求め方を理解する	4(4)	40.9	34.8	
	理 科	問題を解決するまでの道筋を構想する	4(3)(力)	59.8	57.2	
		実験の条件制御を構想する	3 (3)	62.0	59.5	
中 学 校	国 語	話の展開を捉え、条件に合わせて書く	2一	38.1	36.4	
			4二	30.1	28.5	
	数 学	数学の用語の意味を正しく理解する	1	31.8	28.4	
			4	34.7	29.2	
		数学的に表現したことを事象に即して解釈し、見いだした事柄を説明する	6 (2)	25.7	21.3	
	理 科	知識を関連付けて理解する	1 (1)	51.9	48.4	
		既習事項を関連付けて分析・解釈する	【共通問題外】 7 (1)	34.8	30.0	

2 質問調査

【道徳性、自己肯定感等】

	調査項目	小 学 校						中 学 校					
		R6			R7			R6			R7		
				全国比			全国比			全国比			全国比
1	人の役に立つ人間になりたい	本県	96.7	+0.8	本県	97.2	+0.8	本県	96.1	+0.9	本県	97.7	+1.1
		全国	95.9		全国	96.4		全国	95.2		全国	96.6	
2	いじめはどんな理由があってもいけない	本県	97.2	+0.5	本県	97.8	+0.6	本県	96.6	+0.9	本県	97.0	+1.1
		全国	96.7		全国	97.2		全国	95.7		全国	95.9	
3	自分には、よいところがある	本県	85.6	+1.5	本県	89.4	+2.5	本県	85.8	+2.5	本県	87.9	+1.7
		全国	84.1		全国	86.9		全国	83.3		全国	86.2	
4	将来の夢や目標を持っている	本県	84.2	+1.8	本県	85.1	+2.0	本県	67.6	+1.3	本県	70.0	+2.5
		全国	82.4		全国	83.1		全国	66.3		全国	67.5	

◇ 道徳性については継続的に全国平均を上回っており、「人の役に立つ人間になりたい」「いじめはどんな理由があってもいけない」と思っている児童生徒の割合は、平成30年度から続けて95%を超えている。

◇ 「自分には、よいところがある」「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合は、令和6年度と比較して増加している。また、引き続き全国平均を上回っており、自分自身や自分の将来について、肯定的に捉えている。

【学習態度と生活習慣等】

	調査項目	小 学 校						中 学 校					
		R6			R7			R6			R7		
				全国比			全国比			全国比			全国比
1	授業では、自分で考え、自分から取り組んでいる	本県	81.2	-0.7	本県	78.7	-1.6	本県	78.4	-1.9	本県	75.7	-2.0
	全国	81.9	全国		80.3	全国		80.3	全国		77.7		
2	分からないことやよくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている	本県	79.2	-1.5	本県	80.2	-1.5	本県	76.0	-2.6	本県	74.7	-2.8
	全国	80.7	全国		81.7	全国		78.6	全国		77.5		
3	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている	本県	81.1	0.3	本県	80.1	0.7	本県	77.4	-0.5	本県	72.2	-1.2
	全国	80.8	全国		79.4	全国		77.9	全国		73.4		
4	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	本県	86.4	0.1	本県	84.6	-0.3	本県	86.2	0.1	本県	85.2	0.5
	全国	86.3	全国		84.9	全国		86.1	全国		84.7		
5	授業以外に1時間以上（中学校は2時間以上）の学習をしている（月～金）	本県	54.3	-0.3	本県	53.3	-0.7	本県	22.8	-8.9	本県	21.9	-8.9
	全国	54.6	全国		54.0	全国		31.7	全国		30.8		
6	授業の内容はよく分かる	本県	83.5	-0.7	本県	79.4	-1.2	本県	78.7	-0.6	本県	74.0	0.2
	全国	84.2	全国		80.6	全国		79.2	全国		73.8		

◇ 「授業では、自分で考え、自分から取り組んでいる」や「分からないことやよく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている」と回答した児童生徒の割合は、令和6年度に引き続き全国平均を下回っている。

◇ 「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と回答した児童生徒の割合は、小学校は全国平均を上回っている。中学校は令和6年度を5.2ポイント下回っており、全国平均との差も広がっている。

- ◇「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と回答した児童生徒の割合は、全国平均と同程度である。
- ◇「授業以外に１時間以上（中学校は２時間以上）の学習をしている（月～金）」と回答した児童生徒の割合は、小学校においては令和６年度に引き続き全国平均を若干下回っている。中学校においては、令和６年度に引き続き全国平均を大きく下回っている（８.９ポイント）。
- ◇「授業の内容はよく分かる」と回答した児童生徒の割合は、全国平均をわずかに下回っている。

【地域や社会との関係等】

	調査項目	小 学 校						中 学 校					
		R6			R7			R6			R7		
		本県	全国	全国比	本県	全国	全国比	本県	全国	全国比	本県	全国	全国比
1	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	84.1	83.5	+0.6	82.7	81.3	+1.4	78.6	76.1	+2.5	78.4	75.3	+3.1

- ◇「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と回答した児童生徒の割合は、令和６年度に引き続き全国平均を上回っており、社会への関心の高さがうかがえる。

【ＩＣＴ機器の活用等】

	調査項目	小 学 校						中 学 校					
		R6			R7			R6			R7		
		本県	全国	全国比	本県	全国	全国比	本県	全国	全国比	本県	全国	全国比
1	授業でPC・タブレットなどのICT機器を週１回以上使用している	85.8	85.5	+0.3	89.6	89.7	-0.1	90.6	89.0	+1.6	92.7	92.2	+0.5
2	授業でPC・タブレットなどのICT機器を週３回以上使用している	57.8	59.5	-1.7	67.8	71.7	-3.9	63.4	64.4	-1.0	75.0	76.5	-1.5

- ◇「授業でPC・タブレットなどのICT機器を週１回以上使用している」と回答した児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに全国と同程度であるが、週３回以上の使用では、小学校・中学校ともに全国平均を下回っている。

小学校国語

3 三（１）目的に応じて、必要な情報を見付ける

- ・ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題です。

3 木村さんの学級では、言葉の変化について学ぶために、みんなで【資料１】を読みました。そして、【資料１】を読んで一人一人が疑問や興味をもったことについて調べ、分かったことをもとに考えをまとめることにしました。【資料１】をよく読んであとの問いに答えましょう。

【資料１】

三 木村さんは、言葉の変化について田中さんと話し合いながら、【資料１】を読み返しています。次の【話し合いの様子】をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

【話し合いの様子】

ぼくが読んだ二つの資料（【資料２】、【資料３】）には、言葉が変化していることが書かれていたよ。【資料１】に「言葉の正誤を軽々しく決めることはできない」と書かれていることにつながっているよ。

【資料４】

私は、この資料（【資料４】）を見つけたよ。これを見ると、世代によって、「雨模様」の意味のとらえ方にちがいがいることが分かるでしょ。

本当だ。三十代から六十代は本来の意味とはちがう「小雨が降ったりやんだりしている様子」ととらえている人の割合が高いね。

こんなふうに、人によって言葉の意味のとらえがちがうと、伝え合うときに困ると思うよ。だから、【資料１】に「**A**」と書かれているとお리だと思うよ。

（文化庁『令和４年度国語に関する世論調査』による。）

「雨模様」の意味のとらえ方

世代	雨が降りそうな様子	小雨が降ったりやんだりしている様子
16-19歳	50.4	31.9
20代	43.5	42.9
30代	53.7	34.1
40代	53.9	33.4
50代	61.2	26.1
60代	52.6	33.6
70歳以上	46.2	39.8

言葉の変化については、いろいろな考え方があんだね。もう一度【資料１】を読み返して、言葉の変化について自分が一番なっとくしたことをまとめよう。

(1) 【話し合いの様子】の **A** に当てはまる内容として最も適切なものを、次の１から４までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 【資料１】の 部① 3 【資料１】の 部③

2 【資料１】の 部② 4 【資料１】の 部④

木村さん 田中さん 木村さん 田中さん 木村さん

（文化庁国語課「文化庁国語課の勘違いしやすい日本語」による。）

正答 3

< 状況と課題 >

本問の正答率は38.0%であり、全国平均との差は - 2.8ポイントでした。全国・県ともに、すべての設問の中で最も正答率が低い問題でした。本県の解答状況を見ると、誤答の多くは「2」を選択していました。【資料４】から分かることと【資料１】で書かれていることを結び付けて捉えるのではなく、二人の会話に出てきた「本来の意味」や「言葉の意味」などの語句を手掛かりに解答したと考えられます。

そのため、文章と図表などを結び付けて、必要な情報を見付けることが課題であると考えられます。

正答率（％）

全国	40.8
本県	38.0
市町	
自校	

< 自校の状況と課題 >

R6 重点課題

- ・ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題です。

【調べたこと】

<本を読んで分かったこと>	<使ってみて分かったこと>
○ブックカバー ・何回か折るだけで、すぐに完成する。 ・本の大きさに合わせて包むことができる。 ○ペットボトルカバー ・ペットボトルを包んで持ち運ぶことができる。	○ブックカバー ・よごれがつかのを防ぐことができてよかった。 ・落としたときに、本がきずづかなかった。 ○ペットボトルカバー ・水てきが荷物につかなくてよかった。 ・温かい飲み物が冷めにくかった。

物を包む使い方

手ぬぐいは、いろいろな物を包むことができます。



物を包む使い方

※上の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。
解答は、解答用紙に書きましょう。

※◆の印から横書きで書きましょう。とちゅうで行を変えないで、
続けて書きましょう。

三 山田さんは「ちらし」の書き表し方について友達に相談し「ちらし」の部をくわしく書いたほうがよいと考え、次の「調べたこと」を見直しました。あなたが山田さんなら、どのように書き直しますか。あとの条件にに合わせて書きましょう。

【ちらし】

手ぬぐい

手ぬぐいには、いろいろなよさがあります。
そのよさは、どのようなものでしょう。

よさ1 もよう

さまざまなかんじがあり、すきなかんじを選ぶことができます。おくりものとしてもびじりです。

季節を感じるもよう

手ぬぐいには、植物や風景をもとにしたもようがあります。季節に合わせて手ぬぐいを選ぶことができます。

しゅみやすきなものに合わせたもよう

スポーツや音楽などに関係するもようの手ぬぐいもあります。相手のアこのみに合わせて、もようを選び、おくることができます。

よさ2 使いかた

手などをふくだけではなく、身にかけたり、物を包んだりすることもできます。

身に着ける使いかた

いあつひに、水でぬらして首にまくと、すずしく感じます。また、外で作業をするときに頭にかぶると、あせをきゅうしゅうし、両手がくうので仕事がしやすくなります。

物を包む使いかた

手ぬぐいは、いろいろな物を包むことができます。

このように、手ぬぐいには、いろいろなよさがあります。
みなさんもぜひ使ってみてください。

2 山田さんの学級では、伝統工芸品についてせいせんするちらしを書くことにしました。山田さんは手ぬぐいのよさについてせいせんする文章を、次の「ちらし」に書いています。これをよく読んであとの問いに答えましょう。

< 状況と課題 >

本問の正答率は62.0%、全国平均との差は+0.7ポイントでした。無解答率は4.1%であり、全国平均より0.9ポイント下回っていました。この問題は、R6 長崎県重点課題である「条件に合わせて書く」に関連する問題です。昨年度の長崎県学力調査（小学5年時）における、同様の問題では正答率が47.9%（無解答率7.4%）でした。このことから、課題が改善傾向であると考えられます。

誤答の多くは、2 つ目の条件「【調べたこと】の＜本を読んで分かったこと＞と＜使ってみて分かったこと＞のそれぞれから言葉や文を取り上げて書くこと。」が十分に満たされていませんでした。資料から必要な情報を複数抜き出して、簡単に書いたり詳しく書いたりすることが課題であると考えられます。

正答率 (%)

全国	61.3
本県	62.0
市町	
自校	

＜自校の状況と課題＞

- 2 (4) 図形の性質を理解し、面積の求め方を考える **R6 重点課題**
- ・基本図形（三角形と四角形）に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題です。

- 2 (4) わかなさんたちは、図3のような五角形アイウエオの面積の求め方を考えています。

※ 必要ならば、下の公式を使って考えてもかまいません。

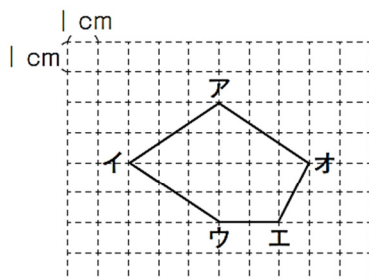


図3

- ・ 長方形の面積＝たて×横
＝横×たて
- ・ 正方形の面積＝| 辺×| 辺
- ・ 平行四辺形の面積＝底辺×高さ
- ・ 三角形の面積＝底辺×高さ÷2
- ・ 台形の面積＝(上底+下底)×高さ÷2
- ・ ひし形の面積＝対角線×対角線÷2

わかなさんたちは、三角形や四角形の面積の求め方が使えるように、図3の五角形アイウエオを、2つの図形に分けようとしています。

五角形アイウエオを2つの図形に分けて面積を求めるとき、あなたならどちらの直線をひいて求めますか。2つの図形に分ける1本の直線を、下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。

また、2つの図形の面積がそれぞれ何cm²になるのか、それらの求め方を、図3の中から必要な長さを調べて、式や言葉を使って書きましょう。ただし、計算の答えを書く必要はありません。

1 直線イオ

2 直線ウオ

(番号1を選んだ場合の正答例)

三角形アイオの面積は、
 $6 \times 2 \div 2$ で求めることができます。

台形イウエオの面積は、
 $(6 + 2) \times 2 \div 2$ で求めることができます。

< 状況と課題 >

本問の正答率は、全国平均よりも5.2ポイント低い、31.8%でした。解答の状況を見ると、五角形を直線イオまたは直線ウオで分けた2つの図形の面積の求め方について、どちらか一方のみ正しく書くことができた児童が12.3%、2つの図形の面積の求め方について、それぞれ公式を用いて書いているが数値に誤りがある児童が4.4%、その他の誤答が約50%でした。

五角形の面積を求める方法(2つの図形に分ける)と公式とが示されていましたが、誤答が多かったことから、直線で分けた図形がそれぞれ何形であるのかや、公式を用いるために必要な長さ(底辺や高さなど)を捉えることが課題であると考えられます。

正答率(%)

全国	37.0
本県	31.8
市町	
自校	

< 自校の状況と課題 >

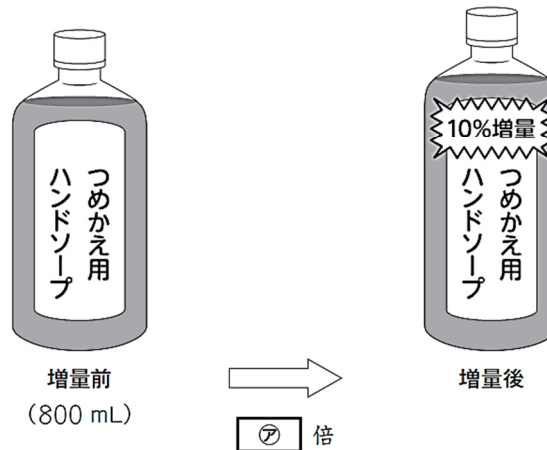
4 (4) 割合の意味や求め方を理解する R6 重点課題

・「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる問題です。

4

(4) 家に帰ったあさひさんは、つめかえ用のハンドソープがのっている広告を見ました。

広告には、つめかえ用のハンドソープが「10%増量」と書かれています。
増量前のつめかえ用のハンドソープの量は800 mLです。



増量後のハンドソープの量は、増量前のハンドソープの量の何倍ですか。

上の②にあてはまる数を、下の 1 から 4 までのの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 0.1
- 2 1.1
- 3 10
- 4 110

(正答)
2

< 状況と課題 >

本問の正答率は34.8%であり、全国平均との差が最も大きい問題でした(-6.1ポイント)。解答の状況をみると、42.2%の児童が「1」を選択しており、百分率で表した10%は小数で表すと0.1であることを理解しているが、「増量後の量」は「増量前の量」と増量分とを合わせた110%であり、1.1倍と表すことを捉えることができなかったと考えられます。

基準量(もとにする量・増量前の量) 比較量(くらべる量・増量後の量) 割合(110%・1.1倍)の関係や百分率と倍の関係などの理解、日常生活の具体的な場面と関連付けて割合を捉えることなどが課題であると考えられます。

正答率(%)

全国	40.9
本県	34.8
市町	
自校	

< 自校の状況と課題 >

4 (3)(カ) 問題を解決するまでの道筋を構想する

- ・ 水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる問題です。

ひろみさんとゆういちさんは、気温に関するニュースを知り、話しています。

日本の1年間の平均気温が、過去100年間で約1℃高くなったことをニュースで知りました。

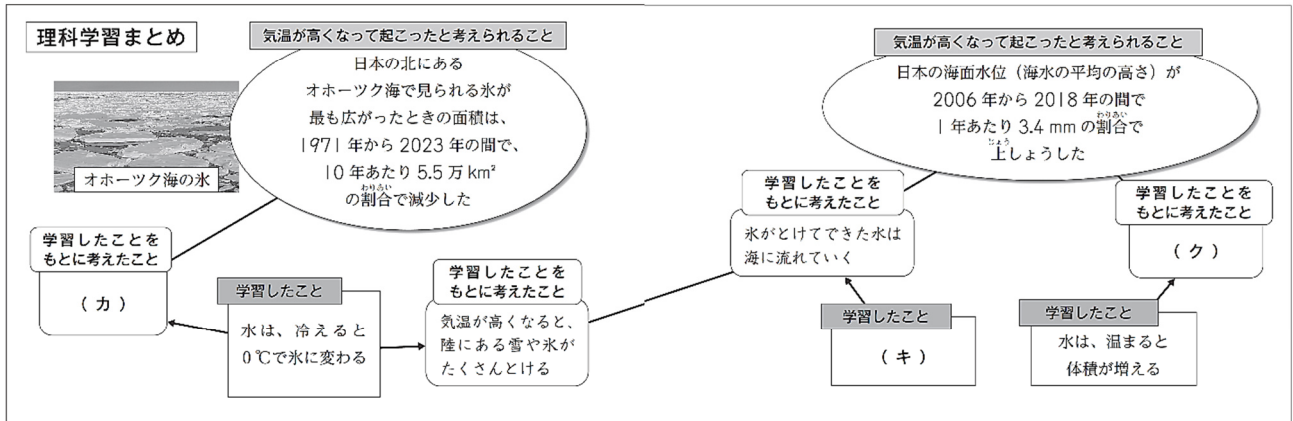


ひろみ



ゆういち

「気温が高くなって起こったと考えられること」について、ひろみさんと思い出したり考えたりしたことを、「学習したこと」や「学習したことをもとに考えたこと」に分け、まとめました。



(3) 図の(カ)から(ク)の中には「学習したこと」や「学習したことをもとに考えたこと」が入ります。(カ)から(ク)の中にあてはまるものを、右の1から4の中からそれぞれ1つずつ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 海水は、温まると水と同じように体積が増える
- 2 海の氷は、平均気温が高くなるとできにくくなる
- 3 水は、高い場所から低い場所へと流れる
- 4 水は、氷になるとき体積が増える

(正答)(カ)2

< 状況と課題 >

本問の正答率は57.2%で(全国比-2.6ポイント)、学習したこと「水は、冷えると0℃で氷に変わる」を根拠に、「海の氷は、平均気温が高くなるとできにくくなる」と正しく捉えており、海の氷の面積が減少した理由を予想することができていました。一方、解答の状況をみると、海にある氷の面積が減少したことの理由として、「3 水は高い場所から低い場所へ流れる」と誤って選択した児童が25.1%いました。

自然の事物・現象に影響を与えると考えられる要因を、これまで学習したことと関連付けて根拠のある予想や仮説を構想することが課題であると考えられます。

正答率(%)

全国	59.8
本県	57.2
市町	
自校	

< 自校の状況と課題 >

3 (3) 実験の条件制御を構想する

- ・発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題です。

たかひろさんは、インゲンマメの発芽の条件について調べたことを思い出し、次のように、ヘチマの発芽について調べることにしました。

【問題】ヘチマの種子は、どのような条件で発芽するのだろうか。

【予想】インゲンマメの種子と同じように、水、空気、適した温度（室温）といった条件で発芽すると思う。

【方法①】水が必要か調べる。

しめらせた
だっし綿

〈条件〉

- ・水あり
- ・空気あり（種子が空気にふれている）
- ・温度（室温）
- ・日光なし（箱をかぶせている）
- ・肥料なし

かわいた
だっし綿

〈条件〉

- ・水なし
- ・空気あり（種子が空気にふれている）
- ・温度（室温）
- ・日光なし（箱をかぶせている）
- ・肥料なし

【方法②】空気が必要か調べる。

しめらせた
だっし綿

〈条件〉

- ・水あり
- ・空気あり（種子が空気にふれている）
- ・温度（室温）
- ・日光なし（箱をかぶせている）
- ・肥料なし

水

〈条件〉

- ・水あり
- ・空気なし（種子が空気にふれていない）
- ・温度（室温）
- ・日光なし（箱をかぶせている）
- ・肥料なし

【方法③】適した温度（室温）が必要か調べる。

ケ

コ

（正答）1、2

(3) 【方法③】のケとコは、それぞれどのような条件で実験すればよいですか。ケとコにあてはまる実験を、下の1から4の中から2つ選んで、その番号を書きましょう。

1

しめらせた
だっし綿

〈条件〉

- ・水あり
- ・空気あり（種子が空気にふれている）
- ・温度（室温）
- ・日光なし（箱をかぶせている）
- ・肥料なし

2

しめらせた
だっし綿

〈条件〉

- ・水あり
- ・空気あり（種子が空気にふれている）
- ・冷蔵庫の中（約5℃）
- ・日光なし（箱をかぶせている）
- ・肥料なし

3

水

〈条件〉

- ・水あり
- ・空気なし（種子が空気にふれていない）
- ・温度（室温）
- ・日光なし（箱をかぶせている）
- ・肥料なし

4

しめらせた
だっし綿

〈条件〉

- ・水あり
- ・空気あり（種子が空気にふれている）
- ・温度（室温）
- ・日光あり（直接日光が当たらない明るい所）
- ・肥料なし



たかひろ

実験の結果から、ヘチマの種子も、水、空気、適した温度といった条件が必要だったよ。

< 状況と課題 >

本問の正答率は59.5%（全国比 - 2.5 ポイント）で、考えられる要因の中から、変える条件は1つの要因とし、他の要因は変えない条件として、実験の条件を制御しながら解決するための観察、実験の方法を発想することができていました。一方、解答の状況をみると、温度や日光などの複数の要因を変える条件として実験を計画した児童が15.9%いました。

探究の過程において、実験の条件を制御しながら解決するための観察、実験の方法を計画する時間を十分に確保するなどして、実験を構想することが大切です。

正答率（％）

全国	62.0
本県	59.5
市町	
自校	

< 自校の状況と課題 >

2ー 資料や機器を使ってスピーチをする

- ・資料や機器を用いた話し方の工夫を捉えることができるかどうかをみる問題です。

- 2 村田さんは、国語の時間に、学校の活動を地域に広げるアイデアについてスピーチをする学習に取り組んでいます。村田さんは、青木さんとあなたにスピーチのリハーサルをってもらい、助言を求めています。次の【村田さんのスピーチ】と、〈スライド①〉から〈スライド⑤〉までを読んで、あとの問いに答えなさい。

【村田さんのスピーチ】

私は、「マリープロジェクト」をもとにしたアイデアを考えました。

「マリープロジェクト」は、皆さんも知っているとおり、環境委員会が参加者を募って行っている、マリーゴールドを育てる活動です。参加したことがない人も、登下校のとき、きれいに咲いたマリーゴールドの花に、心が和んだこともあるのではないのでしょうか。マリーゴールドは、前から育てることが多いのですが、この活動では、採取した種から育てています。

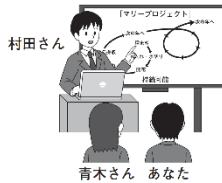
ここで、〈スライド①〉を提示

スライドに示したように、次の年、また次の年へとつながる、持続的な活動であることが、この活動の大きな特徴です。咲いた花を楽しむだけでなく、手入れをしながら成長を見守ることに魅力を感じ、私は、1年生のときからこの活動に参加しています。

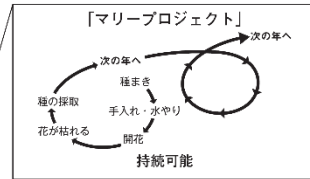
ここで、〈スライド②〉を提示

これは、実際に採取したマリーゴールドの種です。次のシーズンに学校で育てる分を確保したあと、家でも育てたい参加者は種をもらって帰ります。私も、種をもらって、家族と一緒に育てています。ただ、

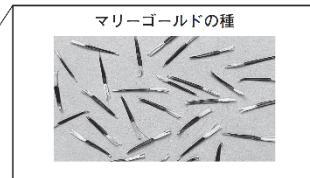
～中略～



〈スライド①〉



〈スライド②〉



(正答)

2

- ー 村田さんは、【村田さんのスピーチ】の——線部㉑「スライドに示したように、次の年、また次の年へとつながる、持続的な活動であることが、この活動の大きな特徴です。」のように、スライドを使って話しています。このときの村田さんの話し方を説明したものと最も適切なものを、次の1から4までの中から1つ選びなさい。

- 1 聞き手の印象に残るように、スライドで意見だけを要約して示しながら、意見とそれを支える根拠を話している。
- 2 聞き手によって経験が違うことを考慮して、スライドで補足の情報を示しながら、話の要点を絞って話している。
- 3 聞き手が興味をもつように、スライドで異なる視点からの情報を示しながら、自分の主張を繰り返し話している。
- 4 聞き手からの質問を想定して、スライドで質問に対する回答を示しながら、自分の立場と考えを話している。

< 状況と課題 >

本問の正答率は36.4%、全国との差は-1.7ポイントでした。解答の状況をみると、——線 ㉑「村田さんの話し方」について、正答は選択肢2の「聞き手によって経験が違うことを考慮して、スライドで補足の情報を示しながら、話の要点を絞って話している」ですが、選択肢1「聞き手の印象に残るように、スライドで意見だけを要約して示しながら、意見とそれを支える根拠を話している」と捉えた生徒が41.1%いました。

このことから、資料や機器の役割を話し手の意図を踏まえて理解すること、それらを用いた話し方の工夫を捉えることが課題であると考えられます。

正答率 (%)

全国	38.1
本県	36.4
市町	
自校	

< 自校の状況と課題 >

4 二 話の展開を捉え、条件に合わせて書く

R6 重点課題

- ・読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる問題です。

4

三上さんは、職場体験活動でお世話になった生花店の店長の太野さんにお礼の手紙を書いていました。次は、三上さんが推敲している途中の「手紙の下書きの一部」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

〔手紙の下書きの一部〕

先日

ご協力ください、

さて、昨日は、私たちの職場体験活動に協力してくれました。大野さんをはじめ、お店の皆さんに親切に指導してもらい、多くの学びを得ることができました。

この体験活動をするまで、私は、生花店で働くことについて、華やかなイメージしかもっていなかったのですが、皆さんに教わりながら、一つ一つ仕入れた商品を下処理したり、葉や花びらが落ちていないように気を付けたり、花を長持ちさせる方法や花言葉を勉強したりすることを通して、華やかさの裏には、それを支える作業や専門的な知識があることを知りました。

二 三上さんは、さらに推敲を重ねようとしています。あなたなら、〔手紙の下書きの一部〕の、どの部分をどのように修正しますか。三上さんの修正の仕方を参考に、次の条件1から条件3にしたがって書きなさい。

条件1 修正した方がよい部分は複数ありますが、言葉の使い方や叙述の仕方などについて、あなたが特に修正した方がよいと考える部分を一つ選ぶこと。なお、〔手紙の下書きの一部〕の内容は、変わらないようにすること。

条件2 修正する際は、削除したり書き直したりしたい部分を線で消し、書き直す場合は、消した言葉の右横に、どのように直すのかを書くこと。

条件3 修正した方がよいと考えた理由を具体的に書くこと。なお、読み返して文章を直したいときは、線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

〔正答例〕

〔手紙の下書きの一部〕

先日

ご協力ください、

さて、昨日は、私たちの職場体験活動に協力してくれました。大野さんをはじめ、お店の皆さんに親切に指導してもらい、多くの学びを得ることができました。

この体験活動をするまで、私は、生花店で働くことについて、華やかなイメージしかもっていませんでした。しかし、皆さんに教わりながら、一つ一つ仕入れた商品を下処理したり、葉や花びらが落ちていないように気を付けたり、花を長持ちさせる方法や花言葉を勉強したりすることを通して、華やかさの裏には、それを支える作業や専門的な知識があることを知りました。

〔理由〕

文が長いため、読みづらく、体験活動の前と後での変化も伝わりにくいから。

< 状況と課題 >

本問の正答率は28.5%、無答率は19.6%という結果になりました。解答の状況を見ると、文章を推敲する際に、適切な修正をすることはできているものの、なぜその部分を修正した方がよいのかという理由を適切に述べるできない生徒が11.6%いました。一方で、修正した方がよい理由を説明できているものの、実際には適切に修正することができていない生徒も16.0%見られました。

このことから、昨年度に引き続き、目的に応じて適切に修正すること、「なぜそのように修正するのか」という理由を結び付けて考えることが課題であると考えられます。

正答率 (%)

全国	30.1
本県	28.5
市町	
自校	

< 自校の状況と課題 >

中学校数学

○用語の意味を正しく理解する

R6 重点課題

・素数や増加量など、用語の意味を理解しているかどうかをみる問題です。

- 1** 下の1から9までの数の中から素数をすべて選び、選んだ数のマーク欄を黒く塗りつぶしなさい。

1 2 3 4 5 6 7 8 9

正答： 2、3、5、7

- 4** 一次関数 $y = 6x + 5$ の変化の割合は6です。この一次関数について、 x の増加量が2のときの y の増加量を求めなさい。

正答： y の増加量は 12

< 状況と課題 >

本問の正答率は、下表のようにどちらも30%に届かない結果となりました。

解答の状況をみると、**1**については「1を素数に含めた誤答」が53.1%、**4**については「式 $y = 6x + 5$ に $x = 2$ を代入した誤答」が29.6%でした。「素数」や「増加量」といった、用語についての理解が曖昧であることによる誤答と考えられます。

「用語の意味を正しく理解すること」はR6年度の県の重点課題としていましたが、今年度も同様に課題であると考えられます。

正答率（％）

	1	4
全国	31.8	34.7
本県	28.4	29.2
市町		
自校		

< 自校の状況と課題 >

6 (2) 数学的に表現したことを事象に即して解釈し、見出した事柄を説明する

・式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題です。

- 6 結菜さんと太一さんは、3、6や12、15のような連続する2つの3の倍数の和がどんな数になるかを調べるために、次の計算をしました。

$$\begin{array}{ll} 3、6 \text{ のとき} & 3 + 6 = 9 \\ 12、15 \text{ のとき} & 12 + 15 = 27 \\ 30、33 \text{ のとき} & 30 + 33 = 63 \end{array}$$

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

- (2) 連続する2つの3の倍数の和は、9の倍数になるとは限らないことに気づいた二人は、連続する2つの3の倍数の和がどんな数になるかを調べることにしました。

そこで、二人は、 n を整数として、連続する2つの3の倍数を $3n$ 、 $3n+3$ と表してそれらの和を計算し、それぞれ次のように式を変形しました。

結菜さんの式の変形

$$\begin{aligned} & 3n + (3n + 3) \\ &= 3n + 3n + 3 \\ &= 6n + 3 \\ &= 3(2n + 1) \end{aligned}$$

太一さんの式の変形

$$\begin{aligned} & 3n + (3n + 3) \\ &= 3n + 3n + 3 \\ &= 6n + 3 \\ &= 2(3n + 1) + 1 \end{aligned}$$

結菜さんの式の変形の $3(2n+1)$ から、「連続する2つの3の倍数の和は、3の倍数である」ことがわかります。

太一さんの式の変形の $2(3n+1)+1$ から、連続する2つの3の倍数の和は、どんな数であるといえますか。「 は、……である。」という形で書きなさい。

正答例：

連続する2つの3の倍数の和は奇数である

正答率(%)

	6(2)
全国	25.7
本県	21.3
市町	
自校	

< 状況と課題 >

本問の正答率は21.3%で、すべての問題の中で最も正答率が低い結果となりました(全国比 - 4.4 ポイント)。

解答の状況をみると、誤答のうち18.3%が「連続する二つの3の倍数の和は3の倍数である」のように、連続する二つの3の倍数の和について $2(3n+1)+1$ からは読み取ることができない事柄を述べたものでした。

このように、式の意味を読み取ることやそれを数学的な表現で説明することが課題であると考えられます。

< 自校の状況と課題 >

知識を関連付けて理解する

R6 重点課題

1 (1) 電熱線で水を温める場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる問題です。

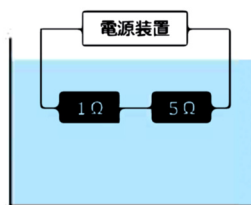
1



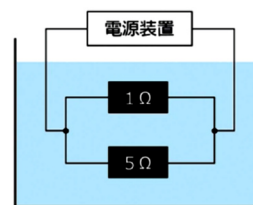
より速く水を温めるには、電熱線をどのようにつなげたらよいでしょうか。右の装置で考えてみましょう。



同じ電圧を加えたとき、回路全体の抵抗がどうなるかを考えれば分かりそうです。



装置 1



装置 2

1Ω 1Ωの電熱線
5Ω 5Ωの電熱線

(1)

回路全体の抵抗が大きいのは装置 1、装置 2 のどちらか、1つ選びなさい。また、下線部について、同じ電圧を加えて、より速く水を温めることができるのは装置 1、装置 2 のどちらか、1つ選びなさい。

回路全体の抵抗が大きい 選択肢から選ぶ

速く水が温まる装置 選択肢から選ぶ

(正答)
全体抵抗：装置 1
温まる装置：装置 2

< 状況と課題 >

本問の正答率は、全国平均よりも 3.5 ポイント低い、48.4%でした。解答の状況を見ると、「2 つの抵抗を直列、並列に接続したとき、回路全体の抵抗（合成抵抗）の考え方」や「速く水が温まる装置は、同じ電圧を加えたとき抵抗が低い方がたくさんの電流が流れ、電力が大きくなり、発熱量が増えるという知識」が身に付いていない生徒が 35.5%いました。

なお、他の知識・技能の問題として、1 (4) の呼吸を行う生物の選択問題が全国平均よりも 1.9 ポイント、1 (5) 塩素の元素記号を記述する問題が全国平均よりも 1.4 ポイント低い結果となりました。

知識が概念として既習事項と関連付けて身に付いていないことが課題であると考えられます。

正答率 (%)

全国	51.9
本県	48.4
市町	
自校	

< 自校の状況と課題 >

【共通問題外】7 (1) 既習事項を関連付けて分析・解釈する

- ・小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造について学習する場面において、共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、多面的、総合的に分析して解釈することができるかどうかをみる問題です。

物質を体内に取り入れるための体の構造について探究しています。

(1)、(2) の各問いに答えなさい。



次の①から③には、物質を体内に取り入れるための体の構造として共通点があります。

①小腸の柔毛

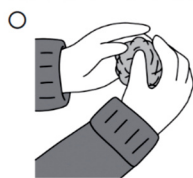
②肺の肺胞

③根毛



(1)

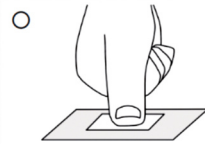
上の①から③の共通点と同じ内容を含むものとして、最も適切なものを1つ選びなさい。



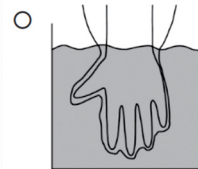
スチールウールを
ほぐして火をつける



水を使って小さな
石などの汚れをとる



カバーガラスを軽く
押してから観察する



ビニール袋に手を入れ、
水の中に手を入れる

(正答)
スチールウールをほぐして
火をつける

< 状況と課題 >

本問の正答率は 30.0% (全国比 - 4.8 ポイント) で、正答した生徒は、物質を体内に取り入れるための体の構造として、表面積を大きくするという共通点とスチールウールに火をつける際に空気中の酸素と触れる表面積を増やすことに共通点があることが理解できていると考えられます。一方、解答の状況をみると、「ビニール袋に手を入れ、水の中に手を入れる。」が 29.8%、「水を使って小さな石などの汚れをとる」が 27.0% の生徒が、表面積を増やすことと共通点があると誤って捉えています。

科学的に探究する場面において、これまでに学習した理科の知識及び技能を共通性・多様性の視点から見方を働かせることが課題であると考えられます。

なお、1 (3) 地層の性質から水がしみ出る場所を判断する問題のほか、4 (1)、5 (2)、6 (2)、8 (1)、9 (1) などが分析・解釈に関連する問題です。

正答率 (%)

全国	34.8
本県	30.0
市町	
自校	

< 自校の状況と課題 >